

渡島地協で2016地場春闘スタート

第一先行組合回答ゾーンの3月15日、地場中小労組の2016春闘を地域的に支援する運動の一環として、例年実施している地場・中小企業経営者との意見交換、要請行動をスタートしました。

（株道南自動車学校社長・常務との意見交換では、冒頭、社長から昨年12月以降、地域全体で取り組んできた「生徒募集に対する協力」により、高校生を中心に12名（当日現在）の生徒紹介したことに対する感謝が述べられました。



（東一運送（株）への要求）

連合側で参加した八木橋事務局長や当該労組の坂委員長、金濱書記長からは、「今後さらに深刻化する少子化の中で生徒獲得合戦が激化することが想定される。営業活動を組合側も経営側とともに取り組んでいく。連合に結集する仲間の協力により一定の実績を上げることができた。組合側の協力に見合う回答を期待する」と数日後に控えた交渉での前進回答を要請しました。

また、厚生労働省の「キャリアアップ助成金」制度について認識していることを確認のうえ、これを活用することによる労使双方のメリットを訴えました。

社長からは、「これから迎える閑散期をどのようにしのいでいくかが経営上の課題であり、引き続き組合側の協力をお願いする。要求に対する回答は交渉までに検討させてもらいたい」と考えを示し、交渉に向けた姿勢を確認しました。

また、同月25日、連合荒木会長及び平石中小労連書記長が東一運送（株）を訪れ、春闘要求に対する理解を会社側に求めました。

荒木会長からは「景気を底支えするには賃金の引き上げが必要であり、組合の話をよく聞いて前向きな回答をお願いしたい」との要請をしました。

これに対し社長からは、「一時の燃料高騰で厳しかった経営状況は新車購入を押さえるなどして何とか乗り越え、いまは燃料価格が下がり見通しは明るくなったが、安定した経営にはまだ至っておらず、そうした状況を説明しながら組合とは十分話し合っていきたい」との話がありました。

引き続き、中小解決促進ゾーンでも地場中小企業への要請行動を展開していきます。